

沖縄口の「う」と「を」の練習のしかた

「を」はのどを止めずになめらかに発音し、「う」は最初にのどを軽く止めてから発音します。この違いは、「を」（のどを止めない）と「お」（のどを軽く止める）を言いくらべるとわかりやすいでしょう。

東京の日本語の「う」は、くちびるをあまり丸く前に出さずに発音します。それに対して、沖縄口（ウチナーグチ）の「う」と「を」は、くちびるを前にしっかり丸く突き出して発音します。そのため、沖縄口の「う／を」は、歌っても話しても、東京の日本語の「う」よりも、ふくよかでよく響く音に聞こえます。このようなくちびるを丸く前に出す「う」は、日本のほかの地域の方言にも見られます。

現在の沖縄の子どもたちは、学校で東京の日本語の「う」を身につけるため、沖縄口の「う／を」の発音をあらためて練習することが大切です。これは沖縄口を受けついでいくための大切な取り組みの一つです。

次の練習をすると、沖縄口の「う／を」の音のちがいを耳と口で感じやすくなります。

① ストローを使ってみよう。ストローをくわえて息を吹きます。そのままの口の形をくずさずにストローを外し、「う」を言ったり歌ったりしてみましよう。

② フクロウのまねをしてみよう。フクロウのように、くちびるを小さな丸い筒の形にしっかり前へ突き出して、「を」と言ったり歌ったりしてみましよう。できるようになったら、最初にのどを軽く止めて「う」を言ってみましよう。

③ 鏡を使ってみよう。東京の日本語の「う」と沖縄口の「う／を」の口の形を見くらべてみましよう。東京の日本語の「う」は、くちびるがあまり前に出ません。沖縄口の「う／を」は、くちびるをしっかりと前に出して、小さな丸い筒のような形にします。